

(案)

富山県武道館整備基本計画【改定版】

令和5年7月

富山県武道館整備基本計画の見直し検討委員会

目次

第1章	計画改定の背景	1
1	県営武道館の老朽化	1
2	現行計画策定後（令和2年4月）の環境変化等	1
第2章	施設のコンセプトと役割	1
第3章	施設の活用イメージ	2
第4章	計画の概要	4
1	立地場所	4
2	施設機能及び施設規模	16
第5章	施設整備にあたり考慮すべき事項	20
第6章	整備費と整備スケジュール	22
1	整備費等	22
2	整備スケジュール（予定）	24

第1 計画改定の背景

1 県営武道館の老朽化

県営富山武道館と県営高岡武道館は、それぞれ昭和47年（1972年）、昭和51年（1976年）に整備された県営の武道館である。開設から約50年経過し、老朽化が進んでおり、バリアフリーへの対応も十分ではない。試合場は公式面で2面から3面程度確保されているものの、県営富山武道館の観客席は少なく、県営高岡武道館には観客席がないことから、大会での利用が難しい状況である。日々の稽古だけでなく、審査会や講習会、県内大会で利用できる武道館の整備が求められている。

2 現行計画策定後（令和2年4月）の環境変化等

令和2年4月（2020年）に策定した「富山県武道館整備基本計画（以下「基本計画」という。）」では、①武道競技の振興・競技力向上、②スポーツ振興・健康増進、③地域活性化・防災力向上の3つの施設のコンセプトを設定した。施設のコンセプトを踏まえ、施設整備候補地の選定基準を設定し、「民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）」が適地として選定された。

その後、令和3年3月（2021年）に「富山県武道館新築工事基本設計」を策定し、令和3年度（2021年度）から令和4年度（2022年度）にかけて富山県武道館民間活力導入可能性調査等を実施した。

しかしながら、資材高騰等による整備費の上昇（87.4億円→約110億円）や、建設予定地周辺の環境が基本計画策定時に比べて大きく変化したことを踏まえ、令和5年2月議会（2023年）で予定していた整備費の予算計上を見送った。

こうした状況を踏まえ、整備費のさらなる削減、基本計画策定後の環境変化を踏まえた機能・規模の見直し、市町村との役割分担等について、検討を進めるため、令和5年4月（2023年）に「基本計画の見直し検討委員会」を設置し、基本計画の見直しを実施した。

第2 施設のコンセプトと役割

老朽化した県営富山武道館、県営高岡武道館がこれまで果たしてきた役割を踏まえたうえで、建設予定地周辺における環境変化、既存周辺施設の立地、基本計画の見直し検討委員会での議論を踏まえて、基本計画のこれまでの3つのコンセプトを「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」に絞り込んだ。

■ 施設のコンセプト

- ・ 「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」

■ 施設の役割

- ・ 富山県の武道の拠点となる施設
- ・ 武道競技の公式大会が開催可能な施設
- ・ 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設

第3 施設の活用イメージ

■ 武道競技の振興・競技力向上

- 富山県の武道の拠点となる施設
武道を県民に普及し、武道を通じて心技体を修練することにより青少年の健全な育成を図るため、本県の武道振興の拠点となる施設とする。
- 武道競技の公式大会が開催可能な施設
柔道・剣道・なぎなた・空手など、各種の武道競技の公式大会を主道場や武道場において開催することにより、レベルの高い選手の技や姿勢を間近に観る機会が拡大し、武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設とする。
- 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設
武道場を各種武道競技の日常の稽古や指導者講習会・研修会の開催など、武道を通じた交流の場として活用する。また、保護者を含め、広く県民に武道に関する情報を発信することにより、県民が武道をより身近に感じることができる施設とする。



柔道大会



剣道大会



なぎなた講習会



空手講習会

出典：柔道大会：公益財団法人全日本柔道連盟のHP

剣道大会：全日本実業団剣道連盟・関東実業団剣道連盟のHP

なぎなた講習会：公益財団法人全日本なぎなた連盟のHP

空手講習会：公益財団法人全日本空手道連盟のHP

■ 武道競技以外での活用（武道用規格・構造のまま活用可能な種目）

- 県民によるスポーツ利用、冬場のスポーツの場としても活用
武道競技だけでなく、県民によるスポーツ利用、冬場のスポーツの場として、県民が様々なスポーツ活動に取り組める場とすることで、スポーツ振興を図る。

※ 剣道等の素足で行う競技を考慮し、競技者が安全に競技を実施できるよう、床面に金具が不要な種目での利用に供する。

（例：卓球、バドミントン、ソフトバレーボール、シッティングバレーボール等）

- 幅広い年代の方が身体活動に取り組める機会の提供
武道場の畳敷きや板敷きの特性を活かしたヨガやストレッチ、エアロビクス、ダンスなど、幅広い年代の方が身体活動に取り組める機会を提供することで、県民の健康増進に寄与する。

<例>

- ・ 県営富山武道館：季節の YOGA、子連れでヨガ など
- ・ 新潟県立武道館：やさしい朝ヨガ、ソフトエアロ、親子うんどう教室 など
- ・ 長野県立武道館：リズムエクササイズ教室、ゆるゆるストレッチ教室 など



卓球



バドミントン



シッティングバレーボール



ヨガ

出典：シッティングバレーボール：一般社団法人日本パラバレーボール協会のHP

第4 計画の概要

1 立地場所

(1) 立地場所に関する意見

第1回基本計画の見直し検討委員会では、物価高騰や周辺環境など基本計画策定後の情勢の変化等を踏まえた整備方針の再検討に関する意見交換を行った。

■ 立地場所に関する意見（第1回基本計画の見直し検討委員会）

- 4階の建物を平屋にする場合、違う場所にするべきなのか。
- 沖縄や金沢のようにスポーツ施設を集約した方が良いのではないか。
- 場所を変え、郊外の県有地に建てるという案であれば、駐車場問題もクリアするのではないか。

(2) 立地場所の再検討

第2回基本計画の見直し検討委員会では、①単価の削減、②延床面積の削減の2つの観点から概算整備費の削減の試算を行った。

現計画地では、整備費見込みが105～110億円と試算され、さらなる整備費の削減のためには、「単層構造で建設可能な広さの土地」で検討することが必要とされた。これらを踏まえ、改めて立地場所を検討する条件を以下のとおり整理した。

■ 立地場所の再検討の条件

- 整備費の削減・令和9年度中の開館
 - ・単層構造で建設可能な広さの土地で検討
 - ・用地取得に時間を要しない県有地で検討
- 駐車場の確保
 - ・敷地内に駐車場が確保できる土地で検討
- 立地場所の再検討の条件を踏まえ、現計画地の「①民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）」に加え、「②五福公園スポーツ広場（富山市五福地内）」「③県総合運動公園のびのび広場（富山市南中田地内）」を新たな候補地として提案し、3か所の敷地について意見交換を行った。
- なお、現行計画において検討の俎上にあがっていた「富山操車場跡地（富山市鍋田地内）」については、敷地の大部分を民間企業に売却済みであること、「高岡スポーツコア（高岡市二塚地内）」については、敷地が県有地でないこと、また、新川地域からのアクセスに要する時間に課題があるとされたことから、今回の検討では候補地に含めていない。

■ 立地場所に関する意見（第2回基本計画の見直し検討委員会）

<五福公園>

- 富山駅から市内電車で15分程で着く。公共交通の本数も圧倒的に違う。
- 近隣に富山大学や富山商業高校があり、多様な年代の競技者が一緒にスポーツができる環境というのは、「武道競技の振興・競技力向上」を考えると大事なことだと思う。
- 渋滞という理由だけで非常に難しいと思う。
- 渋滞の問題を慢性的という言葉で片付けることなく、どのくらい苦情があるのか、見える化してほしい。
- 陸上の大会のときは、アップ場所として利用しており、潰すと大会運営に支障が出る。
- スポーツ広場だけでは少し狭い。拡張性がない。

<県総合運動公園>

- サッカーだけでなく、屋内施設もある。もう少し広い視野で考えると、富山空港の横に県総合体育センターがあり、エリア一帯をスポーツゾーンとして運用していくのが良い。
- 富山インターチェンジが近いので、県外から来る人も使いやすくて良い。
- 敷地が広く拡張性があって良い。
- バス停が少し遠いので、便利になると良い。

(3) 候補地の選定基準

基本計画の見直しにあたり、施設のコンセプトを「武道競技の振興・競技力向上」に絞り込んだことや基本計画の見直し検討委員会や県議会における議論を踏まえ、以下のとおり候補地の選定基準を設定した。

■ 候補地の選定基準

評価の視点	評価項目		
(1)施設利用が見込まれる立地 (利便性・アクセス)	①県内利用者 (移動にかかる時間の観点)	全域から集まる 大会等	公共交通
			自動車
		日常の稽古等	
	②県外利用者 (主に大会参加者)	公共交通	
自動車			
	③駐車場の確保 (利用者用駐車場の確保ができること)		
(2)整備費の削減・ 令和9年度中の開館	①整備費の削減 (単層構造で建設可能な広さの敷地面積を有すること)		
	②令和9年度中の開館 (都市計画、農地関係の各種法令と整合がとれ、遅延の懸念がないこと)		
(3)災害リスク	洪水リスク、地震リスク		
(4)利用者・住民等の 意見	①現武道館利用者意見		
	②大会利用者意見		
	③近隣住民意見		
	④候補地の現利用者意見 (陸上競技者、サッカー競技者等)		

- 下記の理由により、「◎県総合運動公園のびのび広場」が適地と考えられる。
- ・ 駐車場が多く確保でき、富山 I C からのアクセスが良く、大会開催会場に適していること
- ・ 同公園内には陸上競技場、屋内グラウンド、近隣には県総合体育センター等があり、スポーツ施設が集積するエリアとなることが期待されること
- ・ 同公園は敷地が広く、拡張性があること

次頁に続く 

候補地選定基準に基づく評価(概要) ※詳細は次頁以降参照

評価の視点	評価項目	①民間駐車場敷地	②五福公園 (スポーツ広場)	③県総合運動公園 (のびのび広場)	
(1)施設利用が見込まれる立地(利便性・アクセス)	①県内利用者(移動にかかる時間の観点)				
	全域から集まる大会等	公共交通	☆:3 所要時間:総計 2,314分、1校あたり37.3分	☆:2 所要時間:総計 2,724分、1校あたり43.9分	☆:1 所要時間:総計 3,826分、1校あたり61.7分
		自動車	☆:2 移動距離:総計 387km、平均 25.8km 移動時間:総計 598分、平均 39.9分	☆:2 移動距離:総計 402km、平均 26.8km 移動時間:総計 591分、平均 39.4分	☆:3 移動距離:総計 462km、平均 30.8km 移動時間:総計 553分、平均 36.9分
	日常の稽古等	☆:3 半径3km以内に約11万2千人が居住	☆:2 半径3km以内に約7万3千人が居住	☆:1 半径3km以内に約2万6千人が居住	
	②県外利用者(主に大会参加者)				
	公共交通	☆:3 富山駅から550m、徒歩7分	☆:2 ・富山駅から市内電車 13～15分、電停富山大学前から500m徒歩6分、計19～21分	☆:1 富山駅からバス25分、栗山バス停から900m徒歩11分、計36分	
	自動車	☆:2 富山ICから約5.6km、車で16分	☆:2 富山ICから約6.8km、車で14分	☆:3 富山ICから約4.0km、車で9分	
	③駐車場の確保(利用者用駐車場の確保ができること)	☆:1 敷地内に専用駐車場(約20台)確保	☆:2 敷地内に約100台程度新設可	☆:3 敷地内に約300台程度新設可	
	令和9年度中の削減費の削減	①整備費の削減(単層構造で建設可能な広さの敷地面積を有すること)	☆:1 敷地面積:5,950㎡ →単層構造による建設困難 整備費試算:105～110億円	☆:3 敷地面積:約12,100㎡ →単層構造による建設可能 整備費試算:87.3～91.4億円	☆:3 敷地面積:約29,000㎡ →単層構造による建設可能 整備費試算:87.3～91.4億円
		②令和9年度中の開館(都市計画、農地関係の各種法令と整合がとれ、遅延の懸念がないこと)	☆:3 商業地域	☆:2 第一種中高層住居専用地域	☆:3 市街化調整区域
(3)災害	洪水リスク、地震リスク	☆:2 洪水リスク(基本想定:0.5～3.0m/最大想定:3.0～5.0m)、地震リスク(予測震度7)	☆:1 洪水リスク(基本想定:3.0～5.0m/最大想定:3.0～5.0m)、地震リスク(予測震度7)	☆:3 洪水リスク(基本想定:一部0.5～3.0m)、地震リスク(予測震度6強)	
小計		☆:20	☆:18	☆:21	
(4)利用者・住民等の意見	①現武道館利用者意見	-	☆:3 42.6%(23人/54人)	☆:1 14.8%(8人/54人)	
	②大会利用者意見	-	☆:2 33.3%(33人/99人)	☆:3 52.5%(52人/99人)	
	③近隣住民意見	-	☆:2 ・地元自治振興会から建設を望む要望書の提出あり ・周辺道路の渋滞がひどくて困るという声がある一方で、土日は渋滞していないとの声もある。	☆:2 ・地元自治振興会からは、のびのび広場ではなく多目的広場での建設を望む意見もある。	
	④候補地の現利用者意見(陸上競技者、サッカー競技者等)	-	☆:1 ・陸上競技場のサブグラウンドとして利用できなくなると、選手のアップ場所の確保等、大会運営に支障が出る	☆:2 ・ラグビーの練習で利用しており、なくなると不便 ・ファミリー層の憩いの場が少なくなる	
総評・総計		☆:20 富山駅から徒歩圏内で、多くの県民や公共交通を利用する生徒・学生、県外からの利用者の利便性が非常に高いが、単層構造による建設が困難なため、整備費が高い。	☆:26 ・富山駅から運行本数の多い市電でアクセスできること、中心市街地まで車で5分の場所に位置し、公共交通の利便性や富山市中心部とのアクセスが良い。 ・富山大学など教育機関が集積している。	☆:29 ・富山ICからの車によるアクセスは良い一方、公共交通機関による利便性は他の候補地より劣る。 ・駐車場の確保台数が最も多い。 ・公園内に陸上競技場、屋内グラウンド、近隣に県総合体育センター等があり、スポーツ施設が集積している。	

① 民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）

評価の視点	評価項目	①民間駐車場敷地	
(1) 施設利用が見込まれる立地(利便性・アクセス)	①県内利用者(移動にかかる時間の観点)		
	全域から集まる大会等	公共交通 ☆:3 ・県内 62 高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,314 分、1 校あたり 37.3 分	
		自動車 ☆:2 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 387km、平均 25.8km ・移動時間(高速道路の利用を含んだ最短時間)は、総計で 598 分、平均 39.9 分	
	日常の稽古等		☆:3 ・半径3km 以内に約 11 万 2 千人が居住
	②県外利用者(主に大会参加者)		
	公共交通	☆:3 ・富山駅から 550m、徒歩7分	
自動車	☆:2 ・富山 IC から約 5.6km、車で 16 分		
令和9年度中の開館・整備費の削減	③駐車場の確保 (利用者用駐車場の確保ができること)		
	☆:1 ・敷地内に専用駐車場(約 20 台)確保 ・富山駅から徒歩圏内に立地		
	①整備費の削減 (単層構造で建設可能な広さの敷地面積を有すること) ☆:1 敷地面積:5,950 m ² (約 90m×約 65m) 【建蔽率 90%、容積率 600%】 →単層構造による建設困難 整備費試算:105~110 億円		
リスク	②令和9年度中の開館 (都市計画、農地関係の各種法令と整合がとれ、遅延の懸念がないこと)		
	☆:3 商業地域 →とくに制約なし		
(3) 災害リスク	洪水リスク、地震リスク		
	☆:2 洪水リスク(基本想定:0.5~3.0m/最大想定:3.0~5.0m)、地震リスク(予測震度7)		
小計		☆:20	
(4) 利用者・住民等の意見	①現武道館利用者意見		
	-		
	②大会利用者意見		
	-		
③近隣住民意見		-	
④候補地の現利用者意見 (陸上競技者、サッカー競技者等)		-	
総評・総計		☆:20 ・富山駅から徒歩圏内で、多くの県民や公共交通を利用する生徒・学生、県外からの利用者の利便性が非常に高いが、単層構造による建設が困難なため、整備費が高い。	

④ 民間駐車場敷地

住所	富山市千歳町
所有者	民間企業
位置	<ul style="list-style-type: none"> ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。 ・公共交通機関からもアクセスしやすい。
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り駅: JR富山駅から 550m、徒歩7分。
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内 62 高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,314 分、1校あたり 37.3 分。
	<ul style="list-style-type: none"> ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 387km、平均 25.8km。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に専用駐車場(約 20 台)確保。
周辺環境	近隣に、商業、宿泊施設あり



現況写真

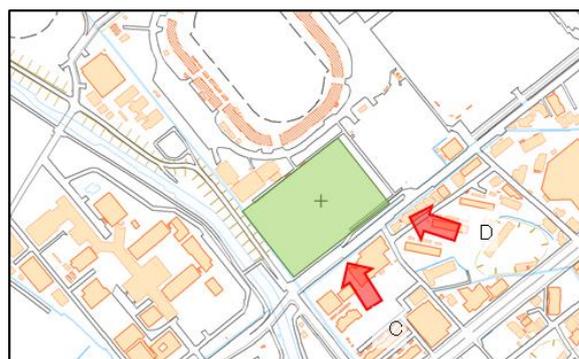


⑤ 五福公園（スポーツ広場）（富山市五福地内）

評価の視点	評価項目	⑤五福公園スポーツ広場	
(1) 施設利用が見込まれる立地(利便性・アクセス)	① 県内利用者(移動にかかる時間の観点)		
	全域から集まる大会等	公共交通	☆:2 ・県内 62 高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,724 分、1校あたり 43.9 分 ・富山駅から富山大学前まで市内電車 13～15 分(運行本数1日 114 本。毎時 1～13 本×1両×輸送定員平均 80 人＝毎時 80～1,040 人)、最寄り駅(富山地方鉄道市内電車富山大学前)から 500m、徒歩 6 分 ・富山駅から富山球場前までバス 6 分(運行本数1日 82 本。毎時 1～8 本×輸送定員 50～60 人＝毎時 50～480 人)、最寄りバス停(富山球場前)から 500m、徒歩 6 分
		自動車	☆:2 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 402km、平均 26.8km ・移動時間(高速道路の利用を含んだ最短時間)は、総計で 591 分、平均 39.4 分
	日常の稽古等		☆:2 ・半径3km 以内に約 7 万3千人が居住
	② 県外利用者(主に大会参加者)		
	公共交通	☆:2 ・富山駅から市内電車 13～15 分、電停富山大学前から 500m徒歩 6 分、計 19～21 分 ・富山駅から約 3.0km(徒歩約 38 分)	
	自動車	☆:2 ・富山 IC から約 6.8km、車で 14 分	
	③ 駐車場の確保 (利用者用駐車場の確保ができること)		☆:2 ・公園内の既設駐車場(400 台)を野球場と陸上競技場との共同利用 ・敷地内に約 100 台程度新設可
	令和9年度中の開館 (2) 整備費の削減	① 整備費の削減 (単層構造で建設可能な広さの敷地面積を有すること)	☆:3 敷地面積:約 12,100 m ² (約 130m×約 90m) 【建蔽率 60%、容積率 200%】 →単層構造による建設可能 整備費試算:87.3～91.4 億円
		② 令和9年度中の開館 (都市計画、農地関係の各種法令と整合がとれ、遅延の懸念がないこと)	☆:2 第一種中高層住居専用地域※ (※住宅や 500 m ² 以下の店舗など建築物の用途制限があり都市計画(用途地域)の変更手続きを要し、最短で 4 か月程度必要)
リスク (3) 災害	洪水リスク、地震リスク	☆:1 洪水リスク(基本想定:3.0～5.0m / 最大想定:3.0～5.0m)、地震リスク(予測震度7)	
小計		☆:18	
(4) 利用者・住民等の意見	① 現武道館利用者意見	☆:3 ・五福公園:42.6%(23 人/54 人)	
	② 大会利用者意見	☆:2 ・五福公園:33.3%(33 人/99 人)	
	③ 近隣住民意見	☆:2 ・地元自治振興会から建設を望む要望書の提出あり ・周辺道路の渋滞がひどくて困るという声がある一方で、土日は渋滞していないとの声もある。	
	④ 候補地の現利用者意見 (陸上競技者、サッカー競技者等)	☆:1 〈現在は、サッカーや陸上競技の練習で利用されている(事前申込制、有料)〉 ・陸上競技場やサッカー場で利用しており、なくなると不便 ・陸上競技場のサブグラウンドとして利用できなくなると、選手のアップ場所の確保等、大会運営に支障が出る	
総評・総計		☆:26 ・富山駅から運行本数の多い市電でアクセスできること、中心市街地まで車で5分の場所に位置し、公共交通の利便性や富山市中心部とのアクセスが良い。 ・富山大学など教育機関が集積している。	

⑤ 五福公園(スポーツ広場)

住所	富山市五福
所有者	富山県(都市公園)
位置	・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。
アクセス	・最寄り駅:(富山駅から市電 13~15 分)富山地方鉄道市内電車大学前から 500m、徒歩 6 分。
	・県内 62 高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,724 分、1 校あたり 43.9 分。 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 402km、平均 26.8km。
駐車場	・公園内の既設駐車場(400 台)を野球場と陸上競技場との共同利用。 ・敷地内に約 100 台程度新設可。
周辺環境	近隣に、富山大学や富山商業高校、富山工業高校あり。 (なお、中心市街地まで車で約5分。)



現況写真



◎ 県総合運動公園（のびのび広場）（富山市南中田地内）

評価の視点	評価項目	◎県総合運動公園のびのび広場	
(1) 施設利用が見込まれる立地(利便性・アクセス)	①県内利用者(移動にかかる時間の観点)		
	全域から集まる大会等	公共交通	☆:1 ・県内 62 高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 3,826 分、1 校あたり 61.7 分 ・富山駅から栗山バス停までバス 25 分(運行本数1日 55 本。毎時 1~6 本×輸送定員 50~60 人=毎時 50~360 人)、最寄りバス停(栗山バス停)から 900m、徒歩 11 分 ・富山駅から総合運動公園バス 35 分(運行本数1日 8 本。毎時 0~1 本×輸送定員 50~60 人=毎時 0~60 人)、最寄りバス停(総合運動公園バス停)から 900m、徒歩 11 分 ・富山駅から吉倉バス停までバス 31 分(運行本数1日 1 本。毎時 0~1 本×輸送定員 50~60 人=毎時 0~60 人)、最寄りバス停(吉倉バス停)から 1.1 km、徒歩 13 分
		自動車	☆:3 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 462km、平均 30.8km ・移動時間(高速道路の利用を含んだ最短時間)は、総計で 553 分、平均 36.9 分
	日常の稽古等		☆:1 ・半径 3km 以内に約 2 万 6 千人が居住
	②県外利用者(主に大会参加者)		
	公共交通	☆:1 ・富山駅からバス 25 分、栗山バス停から 900m 徒歩 11 分、計 36 分	
	自動車	☆:3 ・富山 IC から約 4.0km、車で 9 分	
	③駐車場の確保 (利用者用駐車場の確保ができること)		☆:3 ・公園内の既設駐車場(1,200 台)を陸上競技場、屋内グラウンド、広場との共同利用 ・敷地内に約 300 台程度新設可
	令和9年度中の開館 令和9年度中の削減	①整備費の削減 (単層構造で建設可能な広さの敷地面積を有すること)	☆:3 敷地面積:約 29,000 m ² (約 190m×約 150m) 【建蔽率 60%、容積率 200%】 →単層構造による建設可能 整備費試算:87.3~91.4 億円
		②令和9年度中の開館 (都市計画、農地関係の各種法令と整合がとれ、遅延の懸念がないこと)	☆:3 市街化調整区域 →とくに制約なし
リスク	③災害 洪水リスク、地震リスク	☆:3 洪水リスク(基本想定:—/最大想定:0.5m未満(一部 0.5~3.0m))、地震リスク(予測震度6強)	
小計		☆:21	
(4) 利用者・住民等の意見	①現武道館利用者意見	☆:1 ・県総合運動公園:14.8%(8 人/54 人)	
	②大会利用者意見	☆:3 ・県総合運動公園:52.5%(52 人/99 人)	
	③近隣住民意見	☆:2 ・地元自治振興会からは、のびのび広場ではなく多目的広場での建設を望む意見もある。	
	④候補地の現利用者意見 (陸上競技者、サッカー競技者等)	☆:2 <現在は、少年ラグビーの練習やピクニック等で利用されている(フリースペース、無料)> ・ラグビーの練習で利用しており、なくなると不便 ・ファミリー層の憩いの場が少なくなる	
総評・総計		☆:29 ・富山ICからの車によるアクセスは良い一方、公共交通機関による利便性は他の候補地より劣る。 ・駐車場の確保台数が最も多い。 ・公園内に陸上競技場、屋内グラウンド、近隣に県総合体育センター等があり、スポーツ施設が集積している。	

◎ 県総合運動公園(のびのび広場)

住所	富山市南中田
所有者	富山県(都市公園)
位置	・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。
アクセス	・最寄りバス停(栗山バス停)から900m、徒歩11分。
	・県内62高校・高等部の最寄り駅・バス停から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で3,826分、1校あたり61.7分。 ・15市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で462km、平均30.8km。
駐車場	・公園内の既設駐車場(1,200台)を公園内の陸上競技場、屋内競技場、広場との共同利用。 ・駐車場として整備可能な敷地あり(300台分程度)。
周辺環境	近隣に、県総合体育センター、県国際健康プラザ、テクノホール、富山市体育文化センター、富山能楽堂あり



現況写真



2 施設機能及び施設規模

「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」を施設のコンセプトとしており、「主道場」「武道場」が必要である。

(1) 各機能の施設規模

大規模な武道競技の公式大会を開催するためには、近隣の県立武道館と同程度の延床面積 12,000 m²程度が必要である。各機能及び規模は、概ね下記のとおりとし、今後実施する基本設計・実施設計において精査する。

■ 富山県武道館の施設規模（延床面積 12,000 m²程度）

機能	規模等
主道場	・ 競技面積 2,000 m ² 程度（柔道 6 面又は剣道 6 面） ・ 観客席 1,500 席程度
武道場	・ 競技面（畳敷き 3 面及び板敷き 3 面） 可動間仕切り設置
その他	エントランス、ホワイエ、廊下、階段、事務室、会議室、医務室、トイレ、機械室、搬入ヤード、器具庫、大会諸室、選手控室、更衣室 等

(2) 主道場

県内大会・全国大会の別を問わず、参加者数が数百人規模となる公式大会を開催する場合、以下の理由から、最低限約 2,000 m²程度（縦 50m×横 40m、試合場で 6 面相当）の競技面が必要となる。

1. 円滑な大会運営のために必要なスペースの確保が求められること（複数の試合場や大会役員席のほか、選手控席や競技役員の待機席等）
2. 大会を開催日中に終了させるため、複数の試合場において相当数の試合（所要時間）を集中的に消化する必要があること

(例) 富山県剣道大会 (R4. 12. 4 富山市総合体育館)

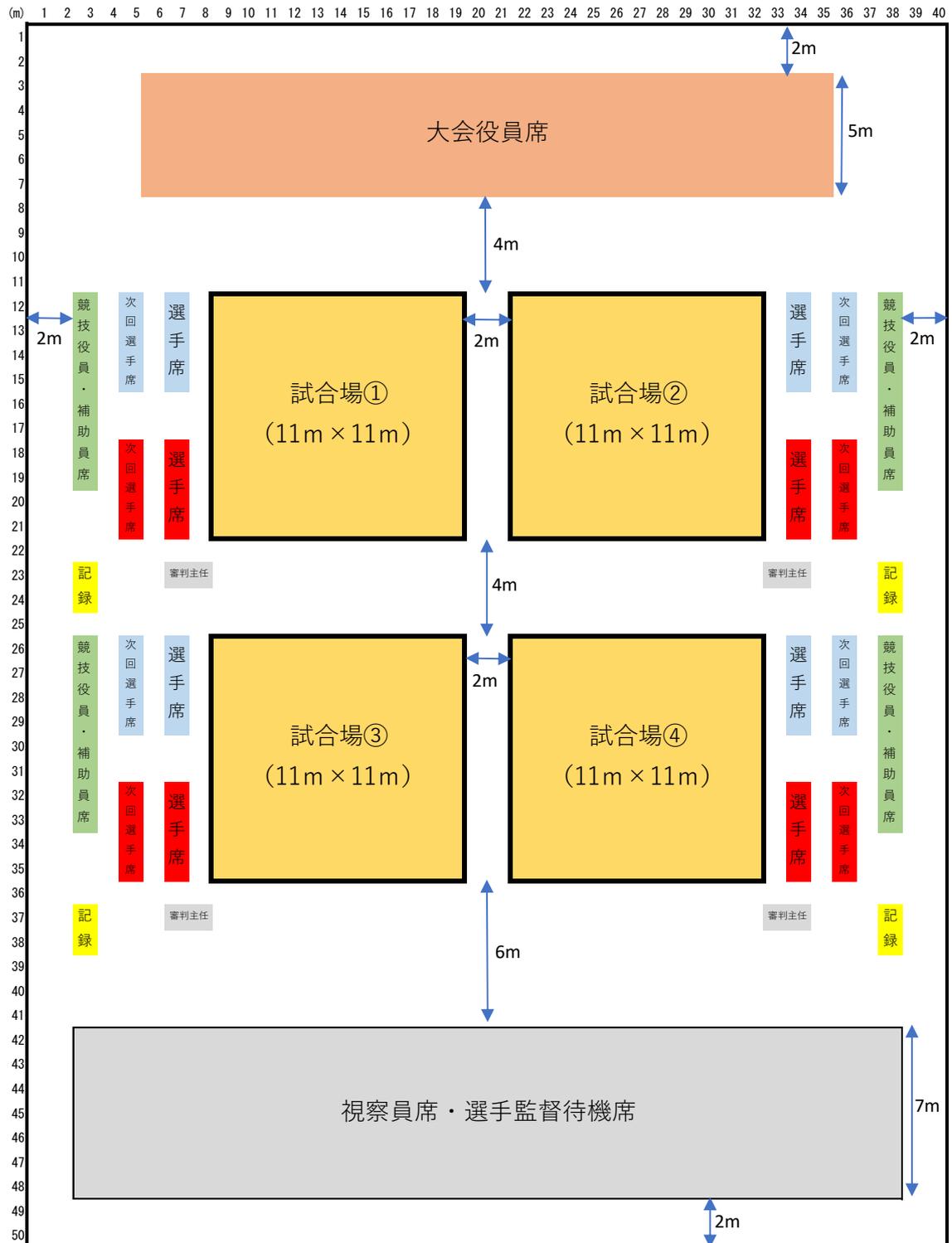
- ・ 参加者数 230 人（個人戦 120 人、団体戦 110 人）
- ・ 試合数 215 試合
- ・ 延べ所要時間 約 1,720 分間（平均試合時間約 8 分間）
- ・ 試合場 4 面

⇒ 約 1,720 分間 ÷ 4 面 = 約 430 分間（約 7 時間）

【参考】他県の類似施設における主道場の競技面の面積

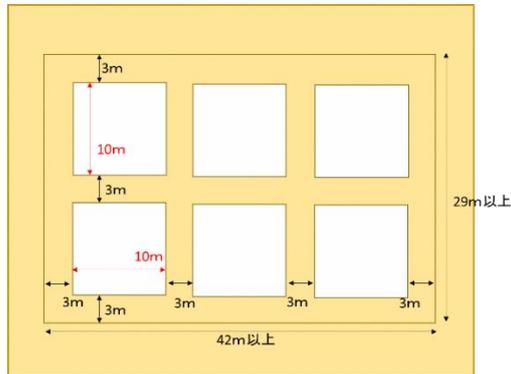
- ・ 長野県立武道館：2,048 m²
- ・ 新潟県立武道館：2,150 m²

(例) 2,000 m²の競技面での会場レイアウト(剣道競技、大会参加者数 250 人程度の場合)



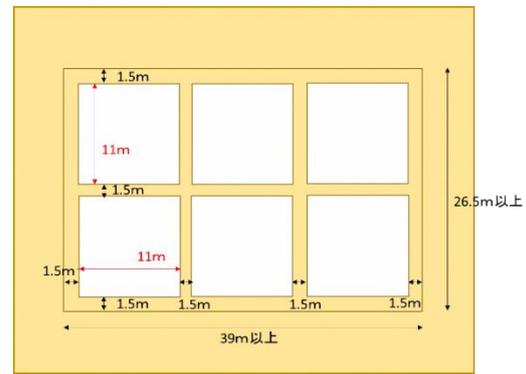
競技面を最も多く確保した場合（最大6面）のレイアウト（50m×40m）

柔道(6面)



公益財団法人全日本柔道連盟
「大会運営ガイドブック 2014」による

剣道(6面)



一般財団法人全日本剣道連盟
「剣道試合・審判規則/剣道試合・審判細則」による

参考：他県の類似施設

名 称	長野県立武道館	新潟県立武道館
所 在 地	長野県佐久市 (佐久平駅から車で約 10 分)	新潟県上越市 (上越妙高駅から車で約 15 分)
開 館	令和 2 年(2020 年) 3 月	令和元年(2019 年)12 月
構 造 等	鉄筋コンクリート造 +鉄骨造一部木造 地上 2 階建	鉄骨鉄筋コンクリート造+鉄骨造 地上 2 階建
敷地面積	34,619 m ²	22,950 m ²
延床面積	12,382 m ²	13,035 m ²
整 備 費	約 63 億円	約 65 億円
施 設	<ul style="list-style-type: none"> 主道場(柔道・剣道 6 面) 固定席:1,512 席 柔道場(3 面)固定席:202 席 剣道場(3 面)固定席:202 席 	<ul style="list-style-type: none"> 大道場(柔道・剣道 8 面) 固定席:1,020 席 小道場(畳敷き、柔道 3 面) 固定席:206 席 小道場(板張り、剣道 2 面) 弓道場(近的 12 人立、遠的 6 人立) 相撲場(本土俵 1 面、練習スペース 1 面)
附属室等	<ul style="list-style-type: none"> 会議室、師範室、器具庫、 シャワー室等 	<ul style="list-style-type: none"> トレーニングルーム、ランニングコ ース、会議室、研修室等
駐 車 場	敷地内:185 台	敷地内:300 台

出典：長野県HP、長野県立武道館HP、新潟県HP、新潟県立武道館HP

(3) 武道場

日常の稽古等での利用を想定し、県営の富山武道館及び高岡武道館をあわせた面積と同程度の水準を確保し、畳敷き3面及び板敷き3面とする。

複数団体が同時利用できるように可動間仕切りの設置を検討する。また、小・中規模の武道大会が開催できるように必要な観客席を設置する。

武道競技だけでなく、ヨガ教室やストレッチ教室、エアロビクス教室、ダンス教室など県民の健康増進に繋がる催事もできるよう配慮する。(利用率向上のため、カルタ大会などの文化活動の利用も検討する。)

(4) その他

・ エントランス・ホワイエ・廊下・階段

全国規模の武道大会開催時の観客動線や避難誘導に支障のない空間を確保する。

・ 事務室・会議室・医務室・トイレ・機械室等

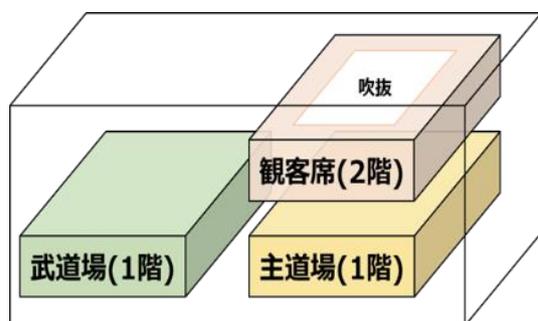
武道競技の公式大会開催、武道や卓球やバドミントンなど日常的なスポーツ利用など、本施設の利用形態を踏まえた上で、管理運営上必要な諸室を確保する。

(5) レイアウトイメージ

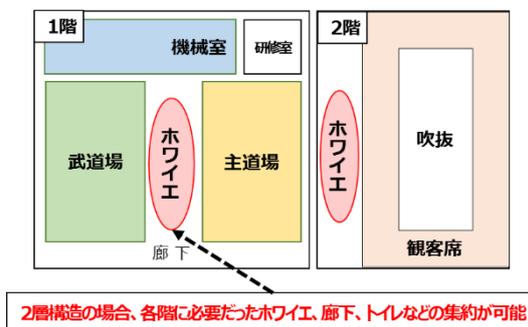
2層構造(4階建)から、単層構造(2階建)とすることにより、各階に必要なだったホワイエ、廊下、トイレなどの集約が可能となり、延床面積を削減できる。

また、2層構造の場合、無柱空間の武道場で上層階を支持するため、建物構造上、極めて高い強度が必要だったが、単層構造の場合、標準的な強度で対応可能となる。

<立面イメージ図>



<平面イメージ図>



第5 施設整備にあたり考慮すべき事項

(1) 駐車場の確保

武道競技等の大会開催時には団体バスの利用や保護者による自家用車での送迎が想定されるほか、障がい者のための配慮も必要である。

団体バスの乗降や荷物の積み下ろしができるスペース、障がい者用駐車場、送迎者用乗降場を確保することについて検討する。

(2) ユニバーサルデザインへの配慮

柔剣道等の大会だけでなく、幅広い年代の方が身体活動に取り組める機会を提供する施設であることから、子どもから高齢者、障がい者、すべての方が利用しやすい施設となるよう、バリアフリーだけでなく、トイレや出入口などの分かりやすいサインなどユニバーサルデザインに配慮する。

(3) 武道競技以外での活用への配慮

施設の稼働率を高めるためには、武道競技以外のスポーツ等でも利用できるように配慮する必要がある。

このため、床面に金具が不要な種目（卓球、バドミントン等）にも利用できるよう、備品や器具庫スペースの確保に配慮する。

(4) 県産材等の活用

県民が誇りを持てる施設にしていくため、また県民や利用者にとって温かみのある利用環境をつくりだすため、県産材の活用について検討し、仮に構造材としては使用できない場合でも、内装材等に積極的に県産材等を活用することについて検討する。

(5) 経済性・環境への配慮

使い勝手が良く機能的でメンテナンス性の高い施設を基本として、設計の工夫や華美なものではなく汎用的な部材を採用するなど、整備費や維持管理費を抑える工夫について検討する。

また、環境負荷の軽減のため、ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)を目指す。
※延床面積 10,000 m²以上の大規模な建築物を対象とした「ZEB Oriented」を想定

(6) 既設の武道館の統廃合

現在の県営富山武道館と県営高岡武道館を県営施設としては廃止することとし、廃止後の施設の活用については、地元市をはじめ関係方面と十分協議し、適切に対処していく。

(7) 弓道場、相撲場について

現在の県営弓道場は、呉羽丘陵の緑豊かな閑静な地（富山市茶屋）にあり、競技者にとって理想的な環境にある。また、五福公園にある富山県スポーツ協会相撲場は、2000年国体に向け相撲競技の拠点として平成5年（1993年）に整備され、富山商業高校の練習場所としても活用されている。

弓道場・相撲場の機能については、既存の県営富山弓道場及び富山県スポーツ協会の相撲場に、必要な改修等を実施する。

第6 整備費と整備スケジュール

1 整備費等

(1) 概算整備費

2層構造（4階建）から単層構造（2階建）に見直し、単価及び延床面積を削減した場合、概算整備費は87.3億円から91.4億円と試算される。

また、備品や設備の内容や導入費用についても、設計段階で精査する必要がある。

(2) 維持管理・運営費

ア 年間支出額

他県の類似施設の運営費用を参考とし、年間支出額は、133百万円（税込）程度と試算される。（※12,000 m²（延床面積）×11.1千円／年m²≒133,200千円／年m²）

参考：類似施設をもとにした年間支出額

施設名	設置者	延床面積 (m ²)	年間収入額（千円／年）			年間 支出額	面積あたり 年間支 出額 (千円／ 年m ²)
			A： 使用料金 収入等	B： 指 定 管理料	A+B： 年 間 収入額		
長野県立武道館	長野県	12,382 m ²	12,240 千円／年	90,338 千円／年	102,578 千円／年	102,578 千円／年	8.3千円 ／年m ²
新潟県立武道館	新潟県	13,035 m ²	—	—	—	180,000 千円／年	13.8千円 ／年m ²
平均	—	—	—	—	—	—	11.1千円 ／年m ²

※長野県立武道館はR3年度。新潟県立武道館は事業期間中（H31.12月～R16.3月）における1年あたりの維持管理・運営費。

イ 年間収入額

他県の類似施設の収入額を参考とし、年間収入額は、11 百万円（税込）程度と試算される。

類似施設をもとにした年間収入額

(単位：千円)

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
長野県立武道館	694	636	866	719	282	2,070	1,405	1,219	1,058	803	761	1,727	12,240
新潟県立武道館	829	906	1,204	1,009	986	381	834	910	830	843	496	695	9,923
平均	762	771	1,035	864	634	1,226	1,120	1,065	944	823	629	1,211	11,082

※いずれも R3 年度の収入額。新潟県立武道館は、弓道場、相撲場及びトレーニングルームの収入を除いた収入額。

2 整備スケジュール（予定）

令和9年度中の開館を目指す。建設工事期間は、実施設計において精査が必要である。

- ・ 令和5年度：基本計画の見直し、基本設計（9か月）
- ・ 令和6年度：基本設計、実施設計（9か月）
- ・ 令和7年度：実施設計、工事発注手続き（6か月）、建設工事（2年）
- ・ 令和8年度：建設工事
- ・ 令和9年度：建設工事、開館準備（2か月）、開館

		令和5年度				令和6年度				令和7年度				令和8年度				令和9年度											
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q								
基本計画の見直し		←→																											
設計	設計者選定	←→ 3か月																											
	基本設計					←→ 9か月																							
	実施設計									←→ 9か月																			
建設	施工者選定									←→ 6か月																			
	建設工事													←→ 2年															
開館準備																						←→ 2か月							
開館																										★			

※維持管理・運営は、今後、効率的・効果的な手法を検討する。